

野洲市市長

栢木 進 様

野洲市図書館協議会は、市民の代表として資料費の削減に対し、以下の意見を表明します。

令和 6 年 3 月 12 日に開催された図書館協議会において、次年度の資料費が約 20%削減されることを知り、とても遺憾に思います。この大幅削減は、新しい図書資料の購入に支障をきたし、利用者サービスに影響を及ぼすことは明らかです。

図書館の業務ならびにサービスは、市民の要望する図書を購入し、速やかに無償で提供することであり、市民の文化レベルを向上し、民主主義を維持していくために必要な業務です。これを支えるのが資料費です。

野洲市図書館は、全国の同じ規模の市の中でも貸出冊数が 1 位、2 位を争うくらい利用されている図書館です。それほど野洲市図書館は、市民の知識と文化の拠点であり、生活に欠かせない存在となっています。

野洲駅の貸出しボックスもご存知の通り非常に好評で、開館時間外の利用が半分を超えており、いまや野洲市は 24 時間図書の貸出しが利用できる環境になりつつあります。また、新たな取り組みである平和堂での出張図書館サービスも短い時間にも関わらず、図書館が遠くて行けないという市民の多くの利用があります。図書館利用の面展開の取り組みのスタートが切られたばかりです。

これから、さらに市民の利用を増やしていこうとしている矢先に、その原資となる資料費の削減は市民として痛恨の極みです。

ぜひ、資料費の見直しと、増額のご検討をお願いします。

令和 6 年 3 月 13 日

野洲市図書館協議会

会長 早川久登

副会長 松山裕子